



「大丸」という名前は絶対に残すこと。あとは何をやっても構わないと言っていたので、思い切っているいろいろな改革に取り組みました。

市長 ちょうど時代が大きく動いていく中で奥田社長が力を発揮され、会長にご就任なさってから、松坂屋との経営統合の話が始まるわけですね。松坂屋の会長・相談役を務められた岡田邦彦さんは、お祭りのつなかりで、よく津にもいらしてくださいます。日本経済新聞の「私の履歴書」にもありましたが、岡田さんと新幹線で偶然隣り合わせたという出来事は、ドラマチックですね。

奥田 岡田さんは同じ三重県出身の先輩です。百貨店協会の集まりなどで一緒のときは、大丸と松坂屋の関係などを親しく話していました。

どういう関係かという、2つありまして、1つは、江戸時代に大丸が大阪に続いて、圧倒的に松坂屋が強かった名古屋に進出した時のことです。当時は将軍吉宗が緊縮財政を敷いていましたが、名古屋のお殿様の徳川宗春は消費を活発化しようと幕府の政策に反発していました。

市長 今でいう経済活性化ですね。

奥田 大丸はそのお殿様に可愛がっていただいて松坂屋の牙城を脅かしたわけです。もう1つは、1970年くらいに百貨店の統合が始まるのではないかといわれた時期のことですが、この時に大丸と松坂屋は業務提携をやっていました。ですから、全く縁がなかったわけではありませんが、「私の履歴書」に出てくるエピソードにあるように、飛び乗った新幹線の指定席で偶然

隣り合わせた岡田さんとの話し合いが合併のひとつのきっかけとなったのは確かだと思います。

市長 設立されたJ.フロントリテイリングはイメージされた通りですか。

奥田 企業の合併というのは非常に難しいものなのですが、形だけは、皆さんに驚かれ話題にさせていただくほど早く進みました。通常、大きくて歴史の古い企業というのは調整にずいぶんと時間がかかりますが、岡田さんと思いついてやろうと相談し、話し合いを始めてから3年4ヶ月で統合を終えました。

市長 ダイナミックなお話ですね。津の経済人にもいろいろとヒントになりそうです。さて、ここ中勢北部サイエンスシティは63の企業が立地し、約3,000人が働く場所になりました。2006年の合併以来、津市では、この内陸型の工業団地も含めて広域的な経済活動が始まっていますが、奥田さんの目に最近の津市はどう映るのでしょうか。

奥田 私の津のイメージは、中学・高校の頃と、東京の大学から夏休みに帰省した時のものです。高度成長期で津のまちもずいぶん栄えていましたね。私は帰省して友人と会う

ときはだいたい立町に行きました。「立町銀座」と呼ばれるほど栄えていましたが、最近ではシャッター通りになっている。全国的な現象ではありますが、地方が苦戦を強いられている中、津の中心市街地も頑張っていたらいいと感じます。

一方で、サイエンスシティの工業団地をご案

不思議な縁に導かれた松坂屋との合併舞台裏

